

「第 11 回おでかけ交通博 2026in あきた」を開催しました！

令和 8 年 10 月 8 日（木）に ANA クラウンプラザホテル秋田にて「第 11 回おでかけ交通博 2026in あきた」を開催しました。（共催：秋田市 協力：福島大学）

「おでかけ交通博」は、主に地方公共団体の交通担当者や交通事業者等を対象として、喫緊の課題である地域の「おでかけの足」について考えるきっかけとするべく、福島大学の協力を得て、平成 27 年より開始し、これまで 10 回、東北各地で開催してきました。過去最多の総勢 288 名の参加となりました。

午前中は「トークセッション with 東北仕事人」と称し、開催地域の交通やまちづくりに携わる方々と、東北各地の公共交通に携わる有識者である「地域公共交通東北仕事人」（以下、「東北仕事人」）にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。東北仕事人でもある福島大学・吉田樹教授にコーディネーターを務めていただき、パネリストとして、地元から秋田市交通政策課、秋田中央交通株式会社、東日本旅客鉄道株式会社秋田事業本部、東北仕事人である北海学園大学・日野智教授にご登壇いただきました。

「基幹交通と域内交通の連携」をテーマに、秋田市交通政策課からは秋田市の交通を取り巻く現状・これまでの取組・第 4 次秋田市公共交通政策ビジョンに基づく今後の取組を、秋田中央交通株式会社からは IC カード・バスロケ導入の取組を、東日本旅客鉄道株式会社秋田事業本部からは鉄道と自動車交通の連携によるシームレスな移動に関する取組をそれぞれご紹介いただきました。東北仕事人の吉田教授、日野教授から有識者の目線でそれぞれの取組を深掘りするとともに、公共交通の乗り継ぎなど基幹交通と域内交通の連携の課題等についてご議論をいただきました。



【トークセッションの様子】

午後には、東北各地の自治体や交通事業者などの計 30 団体に出展いただき、ポスターセッションを実施しました。各団体から 1 分間で取組を PR していただき、その後、取組をまとめたポスターや資料により、それぞれの取組について説明いただきました。参加者は興味関心のある団体の取組について、担当者から詳細を聞きながら意見交換を行いました。



【1 ミニッツPR・ポスターセッションの様子】

翌日9日（金）にはエキスカーションを開催しました。A・Bの2コースに分かれて、鉄道とバスを利用しながら施設等を見学し、秋田市・男鹿市の「おでかけ」を体験していただきました。

Aコース：秋田市中心市街地循環バス「ぐるる」を活用した秋田市内観光名所等周遊ツアー



【中心市街地循環バス「ぐるる」に乗車する様子】



【ねぶり流し館】



【赤れんが郷土館】

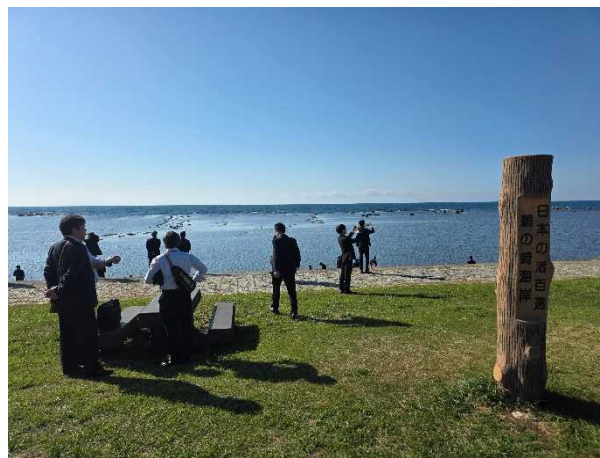


【千秋公園・久保田城御隅櫓】

B コース：男鹿あいのり観光タクシー等を活用した男鹿市内観光名所等周遊ツアー



【JR 男鹿線】



【鵜ノ崎海岸】



【なまはげ立像】



【男鹿半島ぐるっと便】

大変多くの方にご参加いただき、盛況となりました。また、参加者の皆様から、「参考になる内容が多くあった」「たくさんの取組を聞くことができ、とても有意義だった」など、多数の満足の声をいただいております。東北運輸局においては、今後もこのような機会を通じて、地域の「おでかけの足」の確保・維持・活性化に係る取組を後押ししていきます。